

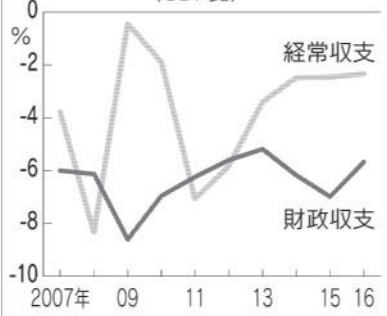
スリランカ人の知人から、インドの政治討論番組を録画したものをみせてもらった。「中国が積極的にスリランカを初めとする周辺国の経済開発に関与していることは、インド外交に影響を与える」「インドは他国を支援する十分な資金がないので何らかの対応を考えないといけない」「日本などと共同でスリランカの開発を支援してはどうか」。インドの3人の外交専門家が、中国の

## スリランカの外交と経済

EY JAPAN F&AS 国際公共チーム兼ジャパン・ビジネス・サービス エグゼクティブディレクター

山田 聡氏

スリランカの財政収支と経常収支 (GDP比)



著作権の関係上、  
写真は表示しておりません。

## 外国投資呼ぶ改革必要

スリランカに対する支援上の要衝に中国が乗り出している。中国が乗り出してきていることについて注目に値するが、スリランカは、中国はスリランカ南部で港湾や空港の開発を実施したほか、中心都市のコロナボでも不動産開発を積極的に進めている。中国がスリランカを重視していることは間違いない。他方、インドとしては、自国の南の海外外交を展開し、自国の経済発展につなげているように見えるが、スリランカ経済そのものは、必ずしも順調ではない。公的債務が増加し、経常赤字が続く中で、産業の多角化が進まず、優秀な若年労働力は海外に出て行ってしまうという状況が続いているが、外貨が流出し、通貨安が続けば、その結果、外貨建債務負担が増加する。図で示すように、スリランカでは経常赤字が続いているが、外貨が流出し、通貨安が続けば、その結果、外貨建債務負担が増加する。

残高のうち、約半分が外貨建債務であるため、政府はこの通貨安の影響を気にかけている。そもそも国内総生産 (GDP) 約6%程度の財政赤字が続いているわけで、財政悪化リスクを抑制するために、まずは外貨流入を増やして為替安定に注力し、さらに経

## 日本、人材育成で貢献可能

経済を活性化し、税収を増加させることが必要である。すなわち、輸出を起す点とする経済成長を実現するよう抜本的改革が必要だ。こうした状況下、スリランカ政府としては、将来の輸出拡大につながる製造業やIT (情報通信) 産業などに日本を含む外国企業の投資を呼び込むことが経済を改革するために重要であるとしている。いつまでも紅茶の輸出に頼ってばかりはいられない。ちなみに既に進出した日本企業に聞くと、英語が堪能で勤勉なスリランカの労働力に高い評価が聞かれ、一部の製造業の競争力は日本企業に匹敵するという指摘もある。今後、投資を呼び込むためには、変わりやすい法制度や運用を安定させ、優先投資産業を確定し、投資を促進するためのロードマップを明確にすることが必要だろう。日本としては、工業団地の整備や産業人材育成で貢献できるかもしれない。ところで、日印共同でスリランカの開発を実施する可能性について、日本企業のスリランカ通に聞いてみた。「多くの日本企業が商売上手のインド企業を相手にインド市場で苦労していることはご存知でしょう。そのインド企業と一緒に第三国のスリランカの開発をしてはどうか、ということですか……」と言った後、黙ってしまった。外交戦略の方向性が、民間のソロバンが合うかどうかについては慎重な検討が必要かもしれない。